

名古屋柳城女子大学こども学部に入学および編入された皆さん、また名古屋柳城短期大学保育科に入学された皆さん、あらためて、皆さんのご入学を心より歓迎します。

これからの二年間ないしは四年間、皆さんは保育の学びを続けていくことになります。保育や幼児教育に関わる専門的な知識を修得し、子どもと関わるための多くの技能を体得していただきたいと願っています。

さて、今年で創立124年目を迎える柳城学院、その学院の心とも言うべき建学の精神は、聖書の言葉に由来する「愛をもって仕えよ」というものであります。

「愛をもって仕えよ」、そこには、「自分が関わる相手（その相手が大人であれ子どもであれ）が、その人の人生の主役となるようにお手伝いすること」、もう少し別の言葉で言うならば、「自分が関わる相手が、本当にその人自身の人生を歩むことができるように手助けすること」、こうしたことが伝わってくる言葉でもあります。

柳城学院の創設者であるマーガレット・ヤング先生は、カナダ出身の宣教師でありましたが、日本に来られる前に、カナダですでに幼児教育の仕事に関わっていました。子どものために働くことが、どれほど大切なことであり、また、どれほど魅力的なことであるかをよくわかっている人でした。そんなヤング先生が書いた詩の中に、次のようなものがあります。

種まき

翼をひろげた天使が
愛と真理と光明の
種子（たね）をひと粒手にもって
飛ぶのを止めて考えた

これが大きくなったなら、
すばらしい実がなるように
どこへ蒔いたらよいのだろう

救い主さま、それを聞き
にっこりわらっておっしゃった

わたしのためにその種子（たね）を
子どもの心に蒔いておくれ

子どもの心に種を蒔けば、それはやがて大きく成長し、きっとすばらしい実りあるものとなることを、ヤング先生は確信していたのでしょう。そしてまた、保育者の仕事というのは、子どもの心に種を蒔く、そのお手伝いをするものであることを伝えようとしていたのではないのでしょうか。愛と真理と光明の種を。光明という言葉は、少し聞きなれないかもしれませんが。希望と置きかえてもいいでしょう。愛と真理と希望の種を蒔くお手伝い、これが保育者の仕事なのです。

皆さんのなかには、幼年時代のころにすてきな保育者と出会ったことが、保育への道を歩み始めるきっかけとなった人もいないのでしょうか。あるいは、自分の親や親戚の人が保育者であったことが、保育への道を歩むきっかけとなった人もいないのでしょうか。あるいはまた、中学校や高校での保育体験が、保育者を目指すきっかけとなっている人もいないのでしょうか。

どのようなきっかけがあるにせよ、ここに座っている皆さんの心には、すでに、種が蒔かれているのだと思います。子どもたちに関わる仕事につきたい、保育者になりたい、そのような種がすでに蒔かれているのです。

わたしたち教職員は、そのような皆さんの中に蒔かれている種をいっしょに、大切に育てていきたいと思えます。もちろん、最初に述べたように、保育者になるためにはいろいろな学びもしていただくことにはなりますが、より大切なことは、そのような学びを、誰と共にするか、ということでもあります。それは、かならずしも授業だけのことではなく、仲間との交流であったり、課外活動やボランティアであったり、教員や職員との出会いであったり、学生生活全体に関わることであります。ここに集まっている仲間とともに、そしてまた、ここにいる教職員とともに、互いに学びあうことのできる二年間あるいは四年間を、是非ともいっしょに作り上げていきましょう。

皆さんの「子どもに関わりたい」「保育者になりたい」という夢や願いを、これまで応援し、支えてくれた人、そして今も支えてくれている人については、皆さん自身が一番よくわかっていることでしょう。残念ながら、今日の入学式には、保護者の方々・ご家族の方々をお招きすることはできませんでした。

ただ、今日の入学式では、これまで皆さんを支えてくださり、皆さんに理解を示してくださっている方々に対する感謝の思いをいただきながら、新たに成人となった皆さんと共に、将来に向かって、第一歩を踏み出したいと思えます。

入学おめでとうございます。

(名古屋柳城女子大学・名古屋柳城短期大学 学長 菊地 伸二)